

6年(令和6年度中学1年生)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)	
教科全体		▼	○話すこと・聞くことは10ポイント、読むことは6ポイント、目標値を上回っている。	
基礎・活用	基礎	▼	●基礎学力が2ポイント目標値に届いておらず、それに伴い活用も0.1ポイント低い。	
	活用	▼		
観点	知識・技能	▼	要因分析 主体的に取り組む態度が12ポイント目標値に届いていないことから、学習意欲に課題があり、学力向上に繋がっていない。	
	思考・判断・表現	▼		
	主体的に学習に取り組む態度	▼		
国語科の重点目標		<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くことに抵抗感が無くなるよう、日常生活の中で書く活動を取り入れる。 学習意欲を高め、主体的に課題に取り組めるよう、単元の導入や単元の見通しのもたせかたを工夫する。 		
重点的に取り組む学習内容				
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て	
①	書くこと	文章を書くことへの抵抗感を無くす。	毎日の出来事を1行日記に表す活動を年間を通して実施していく。	
②	書くこと	自分の考えを明確にして書くことができるようにする。	筆者や登場人物の心情や考えと比べ、自分の考えをもち、根拠を明確にして書く。	

6年(令和6年度中学1年生)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)	
教科全体		△	○全てにおいて目標値を上回っている。特に活用では10ポイント目標値を上回っている。	
基礎・活用	基礎	△	●変化と関係を苦手としている児童もいることから、目標値を1.3ポイントしか上回っていない。	
	活用	△		
観点	知識・技能	△	要因分析 答えがはっきりと明確化している算数は、解き方を理解できれば、正答に繋がるので、主体的に取り組む態度のポイントも高くなっている。比例関係を見付けることが苦手な児童も見られる。	
	思考・判断・表現	△		
	主体的に学習に取り組む態度	△		
算数科の重点目標		<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で自力解決の時間を設定し、自分の考えに明確な根拠をもたせ、文字や式、図などで表せるようにする。 基礎学力の定着を図るため、繰り返しの反復練習を実施する。 		
重点的に取り組む学習内容				
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て	
①	変化と関係	比例の関係のきまりを覚え、数の変化に気付く	表などから、数の変化に着目し、その規則性に気付けるようにする。	
②	図形	複合図形の面積や体積を分割して求めることができるようにする。	複合図形について分割や移動、または余分な部分を除くといった方法を選択できるようにする。	

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。